

## 福島県内消費者団体等と東北農政局の食品安全にかかる意見交換会の開催概要

東北農政局 消費・安全部 消費生活課

- 1 日 時 平成30年10月2日（木）13：30～15：30
- 2 場 所 福島市民会館 5階502号室（福島県福島市霞町1番52号）
- 3 参加者 福島県内の消費者団体 2団体5名  
説明者、事務局10名 計15名
- 4 概 要
  - (1) 農林水産省からの情報提供
    - ① 食品の安全性の向上に向けた農林水産省の取組等について  
東北農政局消費・安全部消費生活課 川原課長より説明
    - ② 遺伝子組換え技術、ゲノム編集技術の農業・食品への応用について  
農林水産技術会議事務局研究企画課技術安全室技術安全企画評価第2係  
奥田より説明

### (2) 意見交換・質疑応答

#### ○ 遺伝子組換え技術、ゲノム編集技術

##### 【 消費者団体 A 】

ゲノム編集は少しは知っていましたが、今回初めて本格的に聞きました。ゲノム編集で求めていたものができるまで、開発にどのくらい時間がかかるのですか。



##### 【 技術会議事務局 】

ゲノム編集は、欲しい形質に関係する遺伝子がゲノム上のどの位置にあるかが分かっている必要があります。また、ゲノム編集で変異を起こした後も、本当に変異が入っていて、形質も狙ったとおりに変化しているのかなどを確認する必要があります、そういった検証にも時間がかかります。

##### 【 消費者団体 A 】

私たちが買えるようになるまではもう少し時間がかかると考えて良いのですか。ゲノム編集でできた食品が市場に出た時に、私たちが見て違いは分かるのですか。



技術会議事務局  
奥田 技術安全企画評価  
第2係

### 【 技術会議事務局 】

本日ご紹介したトマトやタイなどの事例は、全て研究開発の段階であり、まだ市場には流通していません。現在、ゲノム編集の規制に関して、生物多様性への影響や食品安全の観点から検討が進められており、まずはその結果を見て、今後の市場化などの動きが進むと考えられます。

また、ゲノム編集でできたものかどうかを目で見分けるのは困難です。

### 【 消費者団体B 】

遺伝子組換えがうまくいったかどうか、遺伝子が入ったかどうかは、どのように確かめるのですか。

### 【 技術会議事務局 】

例えば、遺伝子組換えカイコの場合は、光る遺伝子をマーカーとして入れることで、組換えができた個体を視覚的に確認することができます。

### 【 消費者団体C 】

豆腐などを見ると、「遺伝子組換えでない」と書いてあります。（流通しているものは）安全だと言うなら、なぜそういう表示がされているのですか。また、遺伝子組換えのものを食べた母親から、アレルギーの症状が重い子どもが生まれたと聞いたことがあります。

### 【 技術会議事務局 】

遺伝子組換えの表示制度は、安全性を担保する目的ではなく、消費者の選択の機会を提供するための制度です。流通しているものは、遺伝子組換え食品の安全性審査を経ているため、安全上の問題はありますが、それを選択するかどうかは消費者の判断となることから表示されています。

アレルギーの問題については、遺伝子組換え食品の安全性審査の中で、「アレルゲンが胃腸で分解されるかどうか」、「アレルゲンは熱に弱いかどうか」、「既に知られているアレルゲンと似ていないか」などについてもしっかりと審査されており、問題がないと判断されたものだけが流通を認められています。

### 【 消費者団体B 】

遺伝子組換え作物の開発に抗生物質耐性マーカーを使うと聞きました。

【 技術会議事務局 】

遺伝子組換えで、目的の遺伝子が入ったかどうかを確認するために使うことがあります。その安全性についても確認されています。

【 農政局 】

皆様は、遺伝子組換え食品について、気にされていますか。

【 消費者団体D 】

子育てをしているので、遺伝子組換えの表示は気にします。周りの若い母親の方も、遺伝子組換えは悪いものだと思っている人が多いです。

以前参加した大豆の勉強会で、ゲノム編集に関連しているとして、とても大きい豚や白い虎の雑誌を見せられ、この技術はどうなんだろうと思っていました。

今日聞いてみてそこまで悪いものではないと感じました。



【 農政局 】

遺伝子組換えは、安全性を確認し、パブリックコメントにより皆様から意見を聞いて理解を得ながら、慎重に進めようとしています。

通常の豚、鳥等の家畜の改良にあたって、短期間で大きく肥育するというの  
は一つの重要な要素ですが、大きくするだけでは駄目で、家畜として健康であることが最も重要です。例えば、早く大きくなると心臓に負担がかかりすぎたりするので、一般的に行われている交配による育種改良では、バランスのとれた家畜となるよう配慮されています。

【 農政局 】

ゲノム編集技術について、初めて聞かれた方はいますか。

【 消費者団体C 】

巨大豚は、ゲノム編集技術の利用によるものではなかったのですか。

【 農政局 】

勉強会等でゲノム編集によるものと説明されたのですか。

【 消費者団体C 】

雑誌の記事で見たことがあります。

【 農政局 】

現在、(国内で) ゲノム編集を使った豚が実用化されている事例は、承知していません。

【 消費者団体B 】

遺伝子組換えやゲノム編集技術を使ってまで、おいしいものを食べなくてもと思います。そもそもなぜ遺伝子組換え作物が開発されるようになったのですか。

【 農政局 】

生産性の向上、作業の省力化を図る目的で開発が進んだと聞いています。農作業では、除草や病害虫の駆除が大変な作業ですが、遺伝子組換えにより省力化が図られ、生産性が向上します。

【 消費者団体E 】

種の包装の裏面をみると、タイ産とか、アメリカ産とか書いているのが多いですが、そういうのが遺伝子組換えなのかと思います。遺伝子組換えの種をまいてしまうと、今までいないような害虫がでてきている感じがします。その辺は納得できません。農家をやめてしまおうかという考えにもなってしまいます。害虫を消毒するには、少なからず消毒液とか使わなければならないので、農家の方たちも難しい選択肢です。遺伝子組換えの種のせいで、今までいないような害虫が発生しているのかわかりませんが、やりきれないと思います。

【 農政局 】

日本で育種開発した品種でも、外国の採種場で増殖されて日本に入ってくるものがあります。採取地の表示が外国だからといって、それが遺伝子組換え体という訳ではありません。日本に輸入される食用作物の種子は全て非組換え体です。

自然界で農薬への耐性ができる場合もまれにありますが、そういうケースは遺伝子組換えが原因ではありません。

【 技術会議事務局 】

遺伝子組換え作物は、国内では青いバラしか栽培されていません。日本の農地は狭いですが、海外の農地は広いので除草剤耐性の遺伝子組換え作物のメリットがあります。

ゲノム編集技術では、除草剤耐性や害虫への抵抗性の付与よりも、比較的毒

素を産生しないとか、機能性成分の蓄積などに着目して研究が進められているのが特徴です。

また、海外にゴールデンライスという遺伝子組換え米があります。アフリカでは、子どもたちがビタミンAの欠乏で最終的に失明してしまう状況が続いています。そこで、米にカロチンをつくらせるように遺伝子組換え技術が使われています。

#### 【 消費者団体B 】

表示をきちんとし、消費者が選択できるようにしてほしいです。5%以下の意図せざる混入を認めるとかのややこしいものではなく、混入しているものは混入していると表示してほしいです。選ぶのは私たちなので迷うことはないと思います。

農家の人の話では、種が高いとっています。技術料などが価格に反映されているのではないかと思います。

#### 【 消費者団体D 】

若い主婦は、遺伝子組換えは駄目だと思っています。そのイメージを払拭してほしいし、せつかく良い研究をしても駄目になってしまいます。遺伝子組換えは、最初によく分からないものとして入ってきていて、そういった情報しか聞いていないから、そのようなイメージがついてしまっています。子どもも含めて、どのような技術か説明する必要があります。

#### 【 技術会議事務局 】

技術会議では、ゲノム編集技術や遺伝子組換え技術について、消費者と意見交換を行い、いただいた意見を研究者につなげる活動をしています。意見交換のご要望があれば伺いますので、ご連絡をお願いします。

#### ○ その他

#### 【 消費者団体A 】

SDGs※の中で我々消費者が関わるのは、12番目の「つくる責任、つかう責任」。消費者庁では「エシカル（倫理的）消費」を進めようとしています。価格、品質だけではなく、どういった環境で作られたかも重視して商品を選択しましょう、という項目が入ってきています。消費者はいろんな要望があって、これがあれば全員が賛成するというのは難しいと思います。アニマルウェルフェア（快適性に配慮した家畜の飼養管理）も入ってきています。例えば、採卵鶏。ゲージに多く入れて飼育すれば生産性は上がるかもしれませんが、平飼い

という特色のある飼い方の玉子を食いたい人もいます。遺伝子組換えで一番大事なことは安全だと思えますが、消費者ニーズもいろいろあり、消費者の選択肢を増やしていただくような視点で品種改良していくことも大切なことだと思えます。

※ SDGs : 2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」

#### 【 農政局 】



川原消費生活課長

道の駅などの直売所では、生産者がいろんな情報を付けて食品を売っていることが多くなってきています。また、昔はアニマルウェルフェアの視点はあまり考慮されませんでした。現在、国では国際指針に沿うよう国としてもアニマルウェルフェアに積極的に取り組んでいます。

国を含めた農業関係者は、消費者のニーズを考えていかないと市場では成功しないし、ニーズをいち早くキャッチして作って行くことも大事。意見が出たことは関係部局と共有します。

#### 【 消費者団体D 】

GAPを取得しないとオリンピックなどには使ってもらえないと聞いています。高齢化、後継者不足で取り組みたいけど難しい人がいると聞きました。取り組むことが難しい人をフォローする仕組みができないもののでしょうか。GAPを進めるためには、生産者だけでなく会社員や退職者なども対象に進めていってはどうですか。

#### 【 農政局 】

農政局や県はGAPを推進する立場であり、GAPに取り組みたい方がいらっしゃれば、ぜひご相談に乗ります。